

PRESS RELEASE

2024年
8月19日

報道機関 関係者の皆様へ

北海道科学大学「ここから」プロジェクト

9月22日(日)、わがまちトーク in ていね vol.1 を開催します

北海道科学大学（札幌市手稲区前田7条15丁目4-1）は、2027年度の新学部開設に向け、2024年4月、新たに「地域共育センター」を発足しました。

「わがまちトーク」は、これまでにない大学の新しい姿をゲストの皆さんと一緒に、フリートーク形式でざっくばらんに語り合うイベントです。皆さんの「わがまち」の想いを自由に聞かせて欲しいという思いでこのイベントを企画しました。

第1回目は、大学のキャンパスがある「手稲」にゆかりがあり、「手稲」で活躍する3名のゲストをお招きします。大学祭と同日開催での実施となり、大学祭でも様々な企画が予定されています。

是非、取材のご協力をお願いいたします。

開催概要

日時：2024年9月22日(日) 10:00～13:00

場所：北海道科学大学 HIT プラザ(食堂)1階ホール

内容：

- ・学長挨拶
- ・地域共育センターと手稲駅前キャンパスの紹介
- ・ゲスト×大学 クロストーク
- ・茶話会

詳細はチラシをご確認ください。

大学HPからも確認いただけます。



NEW記事はコチラから



北海道科学大学 「ここから」プロジェクト わがまちトーク in ていね Vol.1

参加
無料

北海道科学大学は2027年度の新学部開設に向け、2024年4月、新たに「地域共生センター」を発足しました。「わがまちトーク」は、これまでにない大学の新しい姿をゲストの皆さんと一緒に、フリートーク形式でざっくばらんに語り合うイベントです。皆さんの「わがまち」への想いを自由に聞かせてください。「ここから」何が始まるのか一緒にワクワクを共有しませんか。



9.22 日

10:00 ▶ 13:00

HITプラザ
1階ホール

大学祭 稲峰祭 同時開催

手稲と大学、これまでとここから

第1回は大学のキャンパスがあるここ「手稲」を舞台に、「手稲」にゆかりがあり、「手稲」で活躍する3名の方をゲストにお招きします。年代も様々で経歴もユニークなゲストの話を聞きに來ませんか。当日は大学祭を開催していますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

スケジュール

10:00 開会の言葉

10:05 挨拶 北海道科学大学 学長 川上 敬

10:10 北海道科学大学
地域共生センターと
手稲駅前キャンパスの紹介

北海道科学大学
地域共生センター長 山下 美妃

10:30 ゲスト×大学 クロストーク

「手稲で、こんなことができたうれしい」 渡部 孝次さん × 高村 茂(参与)

「手稲に大学があって良かった」 杉原 俊一さん × 山下 美妃(教員)

「私が手稲を好きになった理由」 西 理沙さん × 道尾 淳子(教員)

コーディネーター 木本 晃(地域共生センター副センター長)

12:00 茶話会

13:00 終了

ゲストのみなさまのご紹介

前田連合町内会
副会長

渡部 孝次さん

手稲に住んで33年、JR北海道退職後は町内会長、手稲郷土史研究会・手稲ふるさとまちづくり協議会などで地域の歴史や魅力発見に取り組む。

医療法人秀友会 札幌秀友会病院
リハビリテーション科 科長(医療情報部部長 兼任)理学療法士、博士(工学)

杉原 俊一さん

地域の介護予防に向けた多職種連携に尽力、市民の健康増進を支援する理学療法士。秀友会アカデミアの共催や、「あくるていねく」の制作など、大学との連携も多数。

株式会社TSUKAM取締役/
CEO

西 理沙さん

動画制作「Gutto Media」、ドーナツ製造・販売「MUN'S DOUGHNUT」などの事業を通じて、手稲拠点に、誰も排除されない社会をつくる。

2024年4月

地域共育センターメンバー

もっと地域とつながる大学に 地域共育センター発足



本学に新たに誕生した「地域共育センター」とはどんな組織なのか？
センター長を務める山下教授に本学が目指す地域連携の未来について伺いました。

建学の精神として「地域社会の活性化に寄与する」ことを使命としている本学では、「地域社会への貢献」を基本理念に、これまでさまざまな地域との連携事業を展開してきました。その輪はキャンパスのある札幌市手稲区はもちろん、北海道内のさまざまな市町村、さらには青森県弘前市まで広がっています。学校法人北海道科学大学が創立100周年を迎える今年、本学は新たに「地域共育センター」を設立し、地域連携の歩みを次なるフェーズへと進めます。

これまでの地域連携は、どちらかというと公開講座や講演といった本学の教職員や学生が地域へ出向いて教える教育的要素の強いものが多くありました。ですが、これから進める地域連携は「教育」ではなく、「共育」。本学のリソースを提供するだけではなく、地域全体を学びの場として、私たちも地域と共に成長させてもらいながら、地域の発展・成長に貢献していく。双方向に学び、教わり、成長できる関係を築き、その上で地域に貢献できる人材を育む「共育」を目指していきます。「地域共育センター」は、その地域との共育を推し進めるための専門組織です。

本センター発足後、これまで行ってきた地域貢献活動を振り返り、本学ができる地域貢献とは何かを改めて見直し、既

存の連携協定先とのさらなる関係強化と連携先の拡充に向けたロードマップを策定しているところです。さらに教職員が個々に行っていた社会貢献活動や地域とのつながりについても整理・集約を図っており、今後は「地域共育センター」が地域との窓口として機能していくための体制づくりを進めています。

本学には雪を夏季の空調として活用する研究を行っている先生もいれば、シカよけの笛や屋根の落雪防止について研究している先生もいます。北海道という地域と向き合い、そこでの暮らしを良くするための研究が多く行われているのが大きな強みですし、本学が有する工学部、薬学部、保健医療学部、未来デザイン学部は北海道の地域が抱えるさまざまな課題に関連があり、それらの多くに対応できるところも強みの一つだと思っています。地域の皆さまには、どんなことでも期待してほしいですし、気軽に頼って相談してほしいと思っています。

地域共育センター長 薬学部 薬学科
山下 美妃 教授



地域に“とことんひらく”
センターがその窓口になります

地域連携についての
問い合わせ

北海道科学大学 地域共育センター
(地域連携・広報課)
TEL:011-676-8664
chiiki@hus.ac.jp